

## 犬の熱中症について

夏になり気温が上昇するとヒトは汗をかいて体温調節しますが、犬の汗腺機能は発達していないので、呼吸回数を増やして（パンティングと言います）呼気や唾液の蒸散により体温を下げるしかなく、犬は暑熱がとても苦手です。クーラーを効かせた室内や車内でも直射日光にさらされると、熱中症におちいります。車内に置き去りにするとか、炎天下のアスファルト道路での散歩などもってのほかです。犬の体高はせいぜい数十センチしかなく、歩行時には道路の輻射熱をもろに浴びてしまいます。

### 【症 状】

よだれを流しながらの激しいパンティング、体温が 40℃以上になるとぐったりします。けいれんや虚脱状態は一刻を争う生命危機の徴候です。バスタオルを水で濡らして全身を包み、保冷剤を脇の下や内股の付け根に置いて体温を下げる工夫をして、速やかに動物病院に運び救命処置を受けて下さい。

### 【予 防】

風通しの良い日陰で過ごせるようにしてやってください。グルーミングをして抜け毛を取り除き、アンダーコートが密生している犬種では夏場は短くトリミングすることも必要でしょう。いつでも清潔な水を飲める状態にしておくことが肝心です。

### 【要注意！】

老犬、子犬、肥満犬、循環器や呼吸器に慢性疾患を持つ犬、短頭種と言われるパグやフレンチブルドッグ、北方系のシベリアンハスキーや北海道犬などは特に熱中症にかかりやすいので注意が必要です。